

「心に太陽を」とは、

ドイツの詩人の名句だ。

山陰は「太陽の国」で

ある。新しい一年、あの

友この友の心に、新しい

太陽よ、昇れと祈りたい。

戦乱や災害、経済不況

や環境汚染、さらに身近

でも起る痛ましい事件

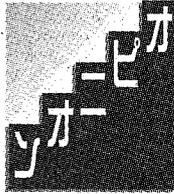
など、暗雲が垂れ込める

時代である。だからこそ、

皆で知恵を出し、力を合

わせて、わが地域から、

安心と安全、そして平和



の光を強めていきたい。

15年来、松江市を中心

に女性防火クラブで活躍

される、お母様のお話を

伺った。天ぷら油の火災

をどう初期に消火するか

など具体的に学び合い、

「火事を出さない町づく

り」を真剣に進める。

こうした草の根の努力

や、福祉や防災の優れた

技術を発信する地元の人

業にもエールを送り、安

心生活へ「地域との共働

不動産開発と外資に依存

中国駐日大使

(57)を外務次官に充てる

後任には程永華駐韓日大

外事委員会副主任を務め

アジア局長を経て、20

07は08年、計189人が



ゴルバチョフ元ソ連大統領夫妻と筆者（左から2人目）  
—1997年、大阪

### 特別寄稿

## 池田 大作 創価学会名誉会長

# 山陰の心は安心社会の太陽

—サン・イン・ハート—

を展開される山陰中央新報社に敬意を表したい。  
私には「人のために  
明かりを灯(とも)せば、  
自分の前も明るくなる」とある。  
ラテン・アメリカの農  
が「サン・イン・ハート」  
家の方が、トウモロコシ  
の最高品質を維持し続け  
ていた。秘訣(ひけつ)  
は、何か。「近隣に最高  
の種を分け、協力するこ  
と」であった。ライバル  
が増えないか? いな!

周りがよくなれば、風  
の受粉を通し、自家の品  
質もより高まるのだ。  
人権の闘士エスキベル  
博士は、この逸話を通し、  
「平和を望むならば、周  
りの平和に尽くすべき  
だ」と強調されていた。  
私が中国に続いて冷戦  
下のソ連を訪問したの  
「声をかける」ことだ。

ました。それが、現地の  
方々との信頼関係が一番  
求められる、国際医療で  
何よりの力となっており  
ます」と。  
一人の生命を大切にす  
る心が、地域も世界も照  
らしゆく陽光となる。  
「人を照らす」とは、  
「心に太陽を」という  
名句を英語的に言えば、  
「サン・イン・ハート」  
すなわち「山陰の心」だ。  
「陰徳あれば陽報あり」  
とは、先哲の箴言(しん  
げん)である。  
誰が善(よ)い、めずとも  
太陽は光を惜しまない。  
私の知る山陰の友も皆、  
誠実に「陰徳」を惜しま  
ぬ方々だ。  
この一年も、希望と幸  
福の「陽報」が輝きわた  
ることを念願している。

は、36年前のことである。  
内外から激しい批判を浴  
びた。しかし私は、「一人  
間に会いに行くのです」  
と対話の扉を開いた。  
今、大きく広がった文  
化・教育の民衆交流の道  
に多くの青年が続いてく  
れている。  
私が創立した学園の卒  
業生である、島根の若き  
外科医は「国境なき医師  
団」の使命を担い、内戦  
に苦しむスーダンに赴任  
した。命懸けで献身する  
彼から便りが届いた。  
「一人と人の絆(きずな)  
が親密な山陰の天地で、  
私は医者である前に、地  
域の一員としての自覚を培

いけた。たいさく 1  
928年(昭和3年)1  
月2日生まれ。東京都出  
身。これまで世界54万国  
・地域を訪問し、各国の  
指導者、文化人、学者等  
と会見、対談を重ねる。  
創価学園・大学のほか民  
主音楽協会、東京富士美  
術館などを創立。「国連  
談」など。

平和賞をはじめ受賞は  
多数。モスクワ大学、北  
京大学、グラスゴー大学  
などから名誉博士号など  
の顕彰は270を超え  
る。主な著書に、小説  
「人間革命」(全12巻)、  
「二十一世紀への対話」  
(A・トインビーとの対  
談)など。